



幸か不幸か、ネット散歩の途中で【日用品占い君】と自分で君を付ける可笑しな奴に出会った。ちょっとからかってやろうかと思ってクリックすると、いきなり【あなたは<お茶わん>です】と言われたので、「どんな柄のお茶わんですか？」と聞き返したら、【其処までの情報はインプットされていません】と逆ギレされてしまった。

そこで私は親切丁寧に、いつも使っているお茶わんの柄を教えてやった。まず、白地にうさはな。次に黄色地にミッフィー。そして同じく黄色地に名も無きネコのイラスト。この3種類の情報を伝えると、【動物柄は受け付けません】と冷たく言われた。

その言い方があまりに素っ気なかったので「もういいや」と思ってその場から立ち去ろうとしたら、【一寸待ちなさい！ 貴方の特徴を教えてあげるから、聞いていきなさい！】と上から目線の口調で言うので、一寸カチンと来たけど「まあいいや」と思って聞いてみた。

【ジャーン！ <お茶わん>な貴女の特徴〜♪】

【一見、ちょっと物静かでちょこんとしている、そんな貴方は<お茶わん>です】

「ああ〜 だから<お茶わん>だってことはさっき聞いたし。でも、中肉中背の体格だから<ちょこん>と言う表現は何か違うな。あ、でも、<海のように静か>ですねって言われたことはあるある。ま、クラシックのコンサート会場で騒ぐ人は、めったに居ないと思うけどね。ははは」

【でも本当はかなりのお喋りで、言いたいことはズバリと言います】

「ぶはっ！ 良く分かってるじゃん。 そうなのよね〜 海のように静か、かと思えば嵐が来て大波小波、海荒れまくりってね。なはははは。ま、ズバリ言う時もあるけど、よっぽどの時だよ。意外と堪忍袋は大きいのさ」

【でも、ちょっとくらい頭にくることがあっても知らないフリをして見過ごすのが吉です】

「うんうん。だからね、ガマンしてるって訳。見過ごすのは結構難しいけど、確かにその方がベターだよ。だって、マイナスのエネルギーを温存しておくのって、かなり疲れるし……」

【心を広く持てばどんな環境でも活躍できます】

「はあ〜い、広く広く空のようにね。でも、どんな環境でも、と言われると考えちゃうなあ〜 だって寒いのが苦手だし…… て、そんな環境の事じゃないって？」

【職業は何でもOKですが、残業のしすぎはよくありません】

「ん？ 残業？ しないしない。明日出来ることは今日しないって。 だって無理して倒れたら明日どころか明後日も出来ないっしょ？ うんうん。 とか言って、職業によるんだよね〜これが。 何でもOKなら…… う〜ん、じゃあ声優とか！ イイね声優。 可愛いキャラの声で出演したあ〜い。 でも、声優は顔を出しちゃダメだよ？ この前声優さんの顔をTVで観てビックリしちゃったもん。イメージ全然違うし。ま、そんなものだと思ってたけどさ。知らぬが花だと思っ今日この頃」

一通り説明してくれた<お茶わん>としての特徴に、イチイチコメントを述べていたら、日用品占い君は暫く黙り込んでいたので、もう占いはコレで終わりなのか、と思って再びこの場を去ろうとしたら、【一寸待ちなさい！ 貴女と他の人との相性を教えて上げるから、聞いていきな

さい！】と相変わらず上から目線で言うので、暫く反応が無かったことに対して「あなたは蛍光灯ですか？」とシニカルに言い返そうと思ったが、「まあいいか」と思って聞いてみた。

【ジャジャーン！ <お茶わん>な貴女との相性】

相変わらず始まりは大袈裟だ。

【友達付き合いは良く、周りには好かれるタイプです】

「うん。そうかも。良いかも。無視できないタイプなんだよねえ～でも好かれているかどうかは、微妙だなあ～ご飯奢ってくれるところが好きとか？なんだそりゃ」

【でもキレたら一番怖いタイプでもあります】

「ははは。確かに怖いかも～小学生の頃、男子に怒ると恐いって言われたもん。てか、優しく怒っても効き目ないっしょ？」

【本当に怒ると、石のようにおし黙ってしまうことも】

「うはは。石だって。硬っ！う～ん、怒るエネルギーがマックスになったらそうかも。自滅だね」

【<やかん><きゅうす>との相性がよく、<つまようじ>ともいい関係を築くことができます】

「へえ～<やかん>と<きゅうす>かあ～って、どんなニンゲンだろ？あ、そう言えば、やかんときゅうすの中身をお茶わんに注いでお茶漬けとか？イイねイイね。で、つまようじとのいい関係って一寸興味津々！今度、つまようじさんを探さなきゃ」

【また<お茶わん>どうしても相性がよく、ベストパートナーになれる可能性があります】

「ふ～ん、もう一人のお茶わんかあ～ベストパートナーって、似たもの夫婦とか？てか、その前に彼氏作らなきゃ！だね。にやはは」

【ただしケンカは注意。一度割れると、修復は難しいです】

「……むむむ。<お茶わん>同士のぶつかり合い。マジ痛そう<>粉々になったら一貫の終わりだね」

「ゴーン♪」

何処かで夕刻を知らせる寺の鐘がなった。すると、日用品占い君が【ジャジャーン！】と言ったまま、ビクとも動かなくなった。どうも、寺の鐘の音が鳴ったと同時に電源が切れたらしい。

「……日用品占い君。多分、キミとはこれが最初で最後だね。じゃあ、さようなら……」

私は、すっかり冷え切ったステンレス製のバット型の日用品占い君にそっと呟くと、パソコンの電源を切った。了